

事業完了報告書（奈良市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和6年5月29日 ～ 令和7年3月15日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 I. 教育課程、教育環境整備に関すること ②不登校経験者向けの支援の在り方 ③中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方
調査研究のねらい	・不登校をはじめ多様な背景を持つ生徒支援のための相談体制や自立支援のための体制の整備を行う。 ・日本語について、様々な課題を持つ生徒一人ひとりの学びの充実を図るため、効果的な指導方法や体制についての方策を探る。
調査研究の成果	・「自立」とは「困っているときに頼る相手を見つけ増やしていくこと」ととらえ、困り感を持つ生徒を社会とつなげるために、地域のNPO 団体や行政機関のスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）との連携を図った。 ・不登校支援として、これまでの情報収集をもとに見えてきた課題に対して、教員が相談できるNPO 法人等の関係機関を整備するとともに、SSW や SC への接続など生徒個別の課題に対応する具体的な支援を実施した。 ・地域日本語教室と連携した日本語指導の研修を実施し教員の指導力の向上を図った。 ・大学生のボランティアを活用し、主に外国籍の生徒への学習補助や学校生活の支援を行った。 ・先進校視察を通じて、教員の相談活動や自立支援についてのスキルアップを図った。 ・生徒個々の傾向やニーズを把握することで、生徒の学習状況に応じた新しい教材を研究し、活用の実施を図った。生徒向けのアンケートでは学習意欲が向上したとの結果が得られた。 【4月・5月】 ・昨年度の調査研究の成果と課題を全教職員で共有した。昨年度に成果・効果の見られた取組を継続し、課題を解消するための手立てを協議した。 ・学校運営協議会において、本事業の内容について承認を得た。

	夜間学級の現状や本事業の計画内容（不登校経験者支援・日本語指導体制の整備・地域との連携等）について報告し承認を得た。 ・校内の生徒理解の会議において学習指導（主に日本語指導）や生徒支援（主に不登校経験者）についての共通理解を図った。 ・大学生等のボランティアを募集し、昼間学級に来ている大学生のボランティアが夜間学級で活動する計画を立てた。 ・地域日本語教室と連携することで、互いのニーズを把握し、協力体制を構築するとともに、日本語指導の専門家を校内研修の講師として招き、教員の指導力向上に寄与する研修計画を立案した。 【6月】 ・校内研修① 昨年度の調査研究内容を踏まえ、「日本語指導力の向上にむけて、日本語を指導する方法について基礎編」をテーマに日本語指導の専門家を招き、日本語基礎編の指導内容について、指導・助言を受けた。 ・地域日本語教室との連携を継続し、授業の見学や指導者との懇談の機会を持つことで、必要な協力・連携について検討・協議した。 【7月】 ・校内研修② 「不登校経験のある形式卒業生の対応について①～困り感を持つ生徒を社会とつなげる～」 NPO 法人から講師を招き、地域・社会とどのようにつなげるか、また、生徒自身が「助けて」と言えて援助を受ける力「受援力」を高めていくにはどのようにすればよいか等を協議した。 ・校内研修③ 「日本語指導力の向上にむけて、日本語を指導する方法について初級編」 6月の校内研修の内容から、より具体的な指導方法に踏み込んだ研修を実施し、教員のスキルアップを図った。また、教員の指導方法への悩みや質問に対して、講師の先生から指導・助言を受けた。 【8月】 ・先進校視察 堺市立殿馬場中学校夜間学級の学校見学・交流に参加し、不登校経験者向けの支援の在り方・中学校教育を実施するに必要
--	---

	な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方について、当該校での取組から学んだ。 視察を受けて、校内の不登校経験者の丁寧な支援のために、入学相談時から生徒本人の意向や思いを十分に聞き取った。うえで、入学後の支援に対して生徒本人の意向を尊重するようにした。 また、日本語指導については、普段から日本語使用の機会を増やすために、授業だけでなく授業外の交流の時間においても、日本語で自己紹介を聞く時間や、自己表現する場を設定する工夫をした。 【 9 月 】 ・ 地域日本語教室の講師と会議を行い、夜間学級内の外国籍生徒の日本語力にばらつきがある状況や、多言語での学習に対して生徒個別の対応に課題があることを共有した その結果を受けて今後の研修計画を変更し、研究授業において、日本語指導員に授業を見て指導助言を受ける研修の場を設定した。 ・ 研究授業 市内小中学校に派遣されている日本語指導員を校内に招き、教員の授業を視察してもらい、指導や助言を受けることで教員の指導力向上と、個別の生徒への対応方法を学んだ。 【 10 月 】 ・ 校内研修④ 「不登校経験のある形式卒業生の対応について②～不登校の子どもたちもそれぞれの特性がある～」 NPO 法人から講師を招き、不登校支援の研修を行った。不登校生徒の「小草学園優目」での生活や学習の様子を学ぶとともに、困難を乗り越えて進学や社会に進出する生徒の個別のケースを聞き、フリースクールのように、居場所づくりと学習する場所を一体的に提供する環境づくりの必要性について認識を深めた。 ・ 昼間学級との交流 春日中学校区地域教育協議会主催の「ふれあい文化祭」で、昼間学級の生徒と夜間学級生徒が人権作文発表会を通じて交流した。 ・ 漢字検定 夜間学級が窓口となり、漢字検定を実施することで、春日中学校区の児童生徒、保護者、地域の方々との地域連携、交流の機会となった。 【 11 月 】 ・ 校内研修⑤ 「日本語指導力の向上にむけて、日本語を指導する方法について
--	--

	て中級編」 前回の研究授業・と日本語指導の校内研修を踏まえ、日本語指導内容について、より習熟度が高い生徒向けの指導方法の助言を受けた。 研修から得られたことをその後の日本語指導の授業実践に生かした。特に、学習者が混乱しやすい項目についての文法を理解できた。教員はとりわけ、普段、助詞の「は」や「が」を意識せずに使っていたが、日本語を学ぶ生徒に教える場合にはしっかり理解して取り組むことが大切であると学んだ。 【１２月】 ・ ２０２４年度第７０回全国夜間中学校研究大会・東京大会に２日間参加した。 分科会や授業見学を通して、不登校経験者向けの支援の在り方や日本語を母語としない生徒向けの日本語指導の在り方について先進事例を学んだ。 大会に参加した教員が、内容を全職員に共有し、研究で得た知見を今後の夜間学級において指導に活かす方法を全職員で話し合う機会を持った。 【１月】 ・ 漢字検定 春日中学校区地域教育協議会の主催で、夜間学級が窓口になり、春日中学校区の児童・生徒・保護者、地域の方や夜間学級の生徒がともに、漢字検定を受検する機会を作ることで、生徒間の交流を図った。 夜間学級の生徒は、国語科や日本語指導において、漢字学習に力を入れているため、自分の力を図る良い機会となった。 【２月】 ・ 総括会議 総括会議を行い、本年度の調査研究によって得られた成果と課題を協議し、総括した。本年度は日本語指導や不登校支援の研修によって教員のスキルが向上したことや大学生のボランティアによる支援により、生徒の登校や学習意欲が向上したと評価できた。 ・ 文集作成 １年間の学習成果をまとめた文集を作成し、夜間学級で学んだ生徒の成果物を関係機関や団体へ配付した。 【通年】 ・ 情報発信 自校の取組や成果について、自校のホームページで適宜発信し、夜間学級の内容や実践を広報した。また、地域教育協議会や商業施設へのチラシ配付を通じ、夜間学級の取組について積極的な周知を実施した。
--	--